

て、其研究室は神聖であらう者には尊厳なりと云はれやる。世間も亦其の學者を非の至當のことだと思ふて當局は職權上當然の處云へ法律の規定に依つて定款に事件に關する一切の事が出来ないのだから、甚だしく迷惑を蒙るも該學校經營者であるが是し其經營の障礙とならぬ心の注意が必要であるが、つき如何にも若輩らしいが窺はれる(△△△)

興三十錢 坪當四十五圓) 軌道下目黒車庫敷地とし 區白金志田町五十一番地 坪數九十二坪餘代金一萬 白三十三圓(坪當り百七 五變電所敷地として何れ 可決) 故費渡切支給の件市會議 武吉氏に海外都市施設狀 を囑託する爲め故費三千 文給(可決) 十二年度電氣軌道費追加 白一萬四千九百七十五圓 本工場勘定追加豫算六百 圓二千三百七十六圓(可

つゝあるやうな形になつてゐるけれども、しかもそこに見かけるロシア人ミロシアの家屋は私に一種の親しささなつかしさを感じさせるには置かなかつた。私はそこに

好評  
一致!



レルモントフやツルゲネフやゴリキーやアルツイバセフの描いた人達をばつきりこ見るこゝが出来た。恰度季節も季節で、長い飽々する冬の寒居から、やつこ五月の晴れやかな碧の空の空氣の中に解放された時なので、誰れも生き生きとした心持で、軽い美しいあつさりした色彩の帽子や着物なごをつけて、男や女が羨ましそうに

「何しろ、ロシア人困つてるんですからなに着物なごも汚なくないな気がするくらゐ...。それを思ふこ本堂やうな気がしますよ」

町があつたかと思ふり、野があつたかと思ふり、初の中は非常に静地らしい感じしかしてが、横川、沖南氏の志てられてあるあたりにめてロシア人が如何に愛着し、またいかに立市街をつくるこゝに心こいふこゝがはつきりみだめて来た。町はまぐらゐりしか完成してゐつた。そしてかれ等は艱難のために、その最達するこゝが出来ずにこれを擁護しなければうな位置に今は置かれあつた。私は同情の念、こが出来なかつた。

舊市街の静かな町かの前にやつて来た。私此處にもロシア語で書かれた軒先に出でゐるのを若い娘が赤い帽子をかき三人伴れ立つて歩いてゐた。袖や白楊や白午後の日影を透して美るのを目にした。私前に行つて車を捨てた。

Abb. 19.

